

# 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071700555
法人名	有限会社 王子苑
事業所名	グループホーム 王子苑
所在地	福岡県直方市大字感田1040番地4 (電話) 0949-26-4245

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	平成19年8月18日	評価確定日	平成19年9月20日

## 【情報提供項目より】(19年8月7日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 8 人, 非常勤 2 人, 常勤換算	7.2 人

### (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り	
	1階建ての	1階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	36,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

### (4) 利用者の概要(月 日現在)

登録人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0	要介護2	2		
要介護3	2	要介護4	4		
要介護5	1	要支援2	0		
平均	89 歳	最低	76 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人一寿会西尾病院 小野外科胃腸科医院 川島歯科クリニック
---------	---------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

山を開拓した静かな住宅地の頂上に1ユニットのグループホーム王子苑がある。運営者夫妻は、介護支援専門員であると同時に看護者・薬剤師資格を有し、グループホームの運営に役立っている。自治会に加入し、毎日の散歩を通じた地元の人とふれあいやゴミ箱清掃や地域行事に参加することで地域とのかかわりを大切にしている。職員は毎朝のミーティングで唱和している理念の具現化として、入居者と認知力を高める体操をしたり、今日やりたいことや自分を忘れない自己紹介を促したり、“人生を楽しもう”を合言葉に、近隣を散歩したりケーキ屋さんに出かけたりしている。共有空間の真ん中に設置された巨大な自然木の柱は入居者にぬくもりや安定感を与え、共有空間のお好みの場所でくつろぐ入居者が多い。人生の先輩である入居者からの指導や助言から職員は学ぶことが多く、共に支え合う関係づくりは、管理者が入居者宅の植木の剪定をしたり、遠方の実家への外泊支援などからも伺える。ホーム玄関に掲げられた手作りの看板や居室の入り口には利用者それぞれの表札が掛けてあり、ホームがまさに自宅となっている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 改善計画シートを作成し、モニタリングや介護計画の見直しは、入居者各自の情報を東京センターの様式を使いながら課題を明確にしている。家族と意見交換しながら定期的及び必要時介護計画が見直されている。市町村との関わりは講習会参加や運営推進会議開催だけではなく、地域の高齢者に向けて認知症相談窓口設置予定である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価を全職員で行い、職員間で注意しあったり自己学習で支援の向上に努めている。
重点項目②	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6) 行政・地域・家族の代表などメンバーで、現在まで3回運営推進会議を開催し、外部評価の報告・改善点を説明したり、参加者からの成年後見制度についての質問に答えている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8) 地域福祉権利擁護事業や成年後見制度を全職員が周知し、入居者や家族に説明するために研修に参加し、ホームで伝達講習をしている。家族にはパンフレットを渡し説明している。月に1度家族へ入居者の暮らしぶりや健康状態を担当者が書面で報告したり、年4回写真入りの「苑便り」を発行している。かかりつけ医での健康診断を支援したり、家族に毎月金銭出納簿の写しと領収書を郵送し了承を得ている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会に加入し、ゴミだし当番や草刈・行事(秋祭り)に参加している。近所の人を受診や庭木の剪定で困った時は、手助けをしている。近隣の方と日常的挨拶を交わしたり、ホームに遊びに来た子ども達と一緒におやつを食べるなど近隣との交流がある。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家族や友人の訪問を歓迎し社会参加をします」を理念に掲げ、「人生を楽しもう」を合言葉に社会参加を謳い、地域の中での支援に努めている。理念は見やすい位置に掲示し、実践している。	○	今回の法改正である「地域住民との交流の下・・・」をパンフレット・重要事項説明書などに謳うことが求められる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者・職員は毎朝ミーティングの時に理念を唱和し、新たな気持ちで1日を送っている。職員は理念を捉えた具体的なケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ゴミだし当番や草刈・行事(秋祭り)に参加している。近所の方が受診や庭木の剪定で困った時は、手助けをしている。近隣の方と日常の挨拶を交わしたり、ホームに遊びに来た子ども達と一緒におやつを食べるなど近隣との交流がある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員で行い、職員間で注意しあったり自己学習で支援の向上に努めている。職員は外部評価の意義を理解し、前回の外部評価等を活用し、改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域・家族の代表などメンバーで、現在まで3回運営推進会議を開催し、外部評価の報告・改善点を説明したり、参加者からの成年後見制度についての質問に答えている。	○	運営推進会議基準に基づき、2ヶ月毎の開催をお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議以外には市町村との関わりはあまり無い。	○	市の担当者に事業所の情報を提供し、意見交換や協働関係が望まれる。また、立案されている認知症相談窓口の設置についても、市の担当者と連携を取りながら実施されることを期待したい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	職員が地域権利擁護事業や成年後見制度の研修会に参加し、伝達講習をしている。家族にパンフレットを配布したり、運営推進会議でも成年後見制度を説明し、情報を提供している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、写真付きのお便り(苑便りがある月はお便りのみ)と金銭出納の写しを家族へ郵送している。家族の来苑時に支援経過記録を見てもらっているが、家族も報告を楽しみにしている。また、金銭出納帳等に家族のサインがある。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族訪問時、毎日の支援経過記録で入居者の状況を報告し、苦情相談ノートに家族の意見等をお願いしている。運営推進会議の家族の意見はホーム運営に活かしている。	○	家族が意見等を表出する機会は設けているが、家族間の意見の交換や家族同士で支援しあえるためにも家族会の発足をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は認知症の特性を理解し、職員の離職を最小限度にするために、職員の健康に留意したり、勤続年数の褒章などを考慮している。退職者が子供をつれて遊びに来ることもあり、職員と良好な関係作りが伺える。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	職員採用は体力と能力の発揮を考慮して、48歳くらいを基準にしている。雇用契約・服務規程等は整備され、職員の休憩の場を確保し、職員は交代で休憩している。職員それぞれが担った役割を果たし、個々の力を発揮しているが、さらなる研鑽のために、施設長は職員に研修参加を積極的に促したり、進学等も勧めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	人権に関する研修会に参加したり、ホームで学習会を実施したり、家族にもパンフレットを配布している。施設長は人権に対する意識が高く、毎日の朝礼で職員に人権に対する考え方などを伝えている。身体拘束防止マニュアルは整備されているが、虐待防止マニュアルの整備がない。	○	虐待防止マニュアルの作成が望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、苑内外の研修に参加している。看護や介護の手技・薬の知識などは管理者が適宜指導し、研修議事録を整備している。職員の悩みなどは管理者が日頃より聞き、改善できるものは即対応している。	○	ホーム外の研修参加録は作成されているので、ホーム内での研修・学習会の会議録の作成が望まれる。
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームと相互に見学や研修を受け入れ、当苑の行事等に活かしたり、交流のあるグループホームの介護支援専門員からのアドバイス等をサービスに活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学や体験入居を通じて苑の雰囲気に徐々に馴染めるようにしている。やむを得ず急に入居した場合は、職員が付き添い入居者が好む事をしながら、徐々に馴れるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の生活歴や職歴などを把握し、入居者を先生として、職員が着付け・園芸・裁縫など教えてもらい、共に過ごし、学び、支えあえる信頼関係を築き、入居者が由布院の在所を心配している場合は、在所に同行している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	東京センター方式アセスメントシートを利用し、生活歴や職歴などの情報を整理し、順次情報を追加記載している。美容院や自宅訪問など利用者の希望を出来る限り実現できるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の要望等を把握した居宅サービス第1表を家族に見て頂くことで家族の要望等を把握し、職員全員参加の会議で介護計画を立案している。立案した介護計画はFAX等で家族に再度意見をもらいながら、具体的・個別的な介護計画を作成し、入居者や家族の確認や同意印を頂いている。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は心身状態の変化、入院、骨折、認知力の変化など3ヶ月及び必要により見直しを行い、家族と話し合いで新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスとして利用者・家族の状況に応じて、病院受診の支援や遠方の実家への外泊の支援、入居者宅の植木の剪定もおこなうなど柔軟に対応している。空室あれば、短期入所後、入居に至る場合もある。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医の受診を支援し、急変時には迅速に対応している。受診結果はその都度、訪問時・電話等で家族へ伝え了解を得ている。協力医療機関から必要時に往診がある。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「健康管理及び医療機関との連携体制について」の書面に重度化や終末期に向けた方針を記載し、入居者や家族に説明し同意を得ているが、常に家族と何度となく相談し、家族・本人の意向を大切にしながら、方針を決めている。	○	整備した方針に沿って、バイタル等を記載する看護経過記録の整備や医療機関との連携の記録が望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシー保護を考慮し、日ごろからトイレ誘導は静かに他の利用者に目につかないように配慮している。	○	個人情報の保護に関する規程や個人情報の利用目的を明記した書類を整備し、家族への交付や苑内の掲示が望まれる。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業者側の都合を優先するのではなく、朝の体操時に今日は何をしたいか等を尋ね、利用者の希望を優先している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者に食べたいものを毎朝尋ねて献立に取り入れたり、入居者が採ってきた野菜を献立に加えたりしている。調理、盛り付け、食器洗いが出来る入居者には関わりを支援している。職員も利用者と一緒に食事ができるように、職員の食事代の一部を事業所が負担している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴支援をしている。入浴拒否者には家族と相談し対応しているが、1番風呂を用意したり、好きな歌を歌いながら気持ちを変化させたり、お里の話をしたり、薬湯を勧めるなどの工夫をしている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者に得意な踊りや着付けなどの指導をお願いしたり、掃除道具や裁縫道具を用意したり、ゴミ捨てネットの片付け・牛乳とりなど、役割り作りをしている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出簿記載などで、日頃より外出先を把握したり、希望を尋ねて年間行事計画を作成しているが、天気の良い日には王子神社や畑の散歩、ケーキを食べに行ったりしている。商店街の自宅への里帰りも支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ドアに鈴などをつけて入居者の外出に注意しているが、近隣の方々や派出所に協力や理解をお願いしている。以前無断外出された入居者について、牛乳配達の方から連絡があったこともある。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非常災害マニュアルを整備し、日中の火災避難訓練を年2回行っている。消防署から研修参加の案内があるが、避難訓練等に地域の協力を得るまでには至っていない。ホーム所有の広い空き地が避難場所になっている。給水用の井戸があり、発電機も設置している。食料の備蓄もある。	○	避難訓練など地域の方々に協力を得ながら実施されることが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の嗜好品や嚥下状態など把握し、1日1500Kカロリーを目標に食事摂取を支援している。水分摂取の重要性を理解し、摂取量を計量カップで量り記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると、共有空間中央に設置された丸太の自然木の柱がぬくもりや落ち着きを感じさせる。共用空間は明るく換気も配慮され、入居者は思い思いにソファや椅子・畳の間で過ごしている。玄関や廊下の飾り棚には生け花や採れたての野菜などを飾り、季節を感じられる。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドはホームで設置しているが、入居者の安全と居心地に配慮し、ベッド柵も利用している。その他は自由に本人や家族が馴染みの物を持ち込んでいる。家族来苑時は部屋でTVを見たり、昼寝をして過ごし、喜ばれている。		